大中華文庫

漢日対照

大中华文库

汉日对照

国家出版基金项目

NATIONAL PUBLICATION FOUNDATION

三国演义

三国志演義

VI

6

大中华文库

汉日对照

大中華文庫

漢日対照

三国演义

三国志演義

VI

罗贯中　著
井波律子　译

羅貫中　著
井波律子　訳

人民文学出版社
人民文学出版社

著作权合同登记号　图字 01—2017—5072

图书在版编目（CIP）数据

三国演义：汉日对照／（明）罗贯中著；
（日）井波律子译．—北京：人民文学出版社，2008.08
（大中华文库）
ISBN 978-7-02-007182-1

Ⅰ．①三…　Ⅱ．①罗…②井…　Ⅲ．①日语—汉语
—对照读物②章回小说—中国—明代　Ⅳ．①H369.4：Ⅰ

中国版本图书馆 CIP 数据核字（2008）第 100185 号

责任编辑　陈　旻

大中华文库
三国演义
〔明〕罗贯中　著
［日］井波律子　译

© 2017　人民文学出版社

出版发行者：
人民文学出版社
（北京市朝内大街 166 号）
邮政编码 100705
http://www.rw-cn.com

印刷者：
深圳市碧兰星印务有限公司
开本：960 毫米 ×640 毫米　1/16（精装）　印张：195.25　印数：1000
2017 年 10 月份第 1 版第 1 次印刷
（汉日）
ISBN 978-7-02-007182-1
定价：880.00 元（全 6 卷）

版权所有　盗版必究

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

国家出版基金项目
NATIONAL PUBLICATION FOUNDATION

大中华文库

大中華文庫

第一百一回

出陇上诸葛妆神　奔剑阁张郃中计

却说孔明用减兵添灶之法，退兵到汉中；司马懿恐有埋伏，不敢追赶，亦收兵回长安去了，因此蜀兵不曾折了一人。孔明大赏三军已毕，回到成都，入见后主，奏曰："老臣出了祁山，欲取长安，忽承陛下降诏召回，不知有何大事？"后主无言可对；良久，乃曰："朕久不见丞相之面，心甚思慕，故特诏回，一无他事。"孔明曰："此非陛下本心，必有奸臣谗谮，言臣有异志也。"后主闻言，默然无语。孔明曰："老臣受先帝厚恩，誓以死报。今若内有奸邪，臣安能讨贼乎？"后主曰："朕因过听宦官之言，一时召回丞相。今日茅塞方开，悔之不及矣！"孔明遂唤众宦官究问，方知是苟安流言；急令

第一百一回

隴上に出でて　諸葛　神を妝い
剣閣に奔りて　張郃　計に中る

さて、諸葛亮は兵を減らし竈を増やす方法を用いながら、軍勢を退却させ漢中に到着した。司馬懿は伏兵を恐れて追撃に踏み切れず、これまた軍勢をまとめて長安へと帰還した。このため、蜀軍は一人の兵士も失わずにすんだ。諸葛亮は三軍に対し盛大に褒美を与えると、成都に帰還し、入朝して後主（劉禅）にお目通りして言った。「老臣は祁山に出撃し、長安を攻略しようと思っておりましたところ、突然、陛下から詔を賜り、もどってまいりましたが、いったいいかなる大事件がおこったのでありましょうか」。

劉禅は返す言葉もなく黙り込んでいたが、しばらくしてようやく口を開いて言った。

「朕は久しく丞相の顔を見ておらず、とても会いたくなったので、特に詔を下してもどってもらっただけで、別に他意はない」。

「それは陛下のご本心ではありますまい。必ずや邪悪な臣下が讒言を吹き込み、私に謀反の意図があると申したに相違ありません」と諸葛亮。

劉禅はこの言葉を聞いて黙り込み、口を開かなかった。と、諸葛亮は言った。

「老臣は先帝（劉備を指す）よりご厚恩を賜り、死んでお返しする覚悟です。今、もし宮中に邪悪な者がいれば、どうして逆賊を討伐できましょうぞ」。

「朕はまちがって宦官の言葉に耳を傾け、一時の気の迷いで丞相を呼び返してしまった。今はじめて自分の愚かさに気がついたが、後悔先に立たずだ」と劉禅。

そこで、諸葛亮が宦官たちを呼んで追及した結果、はじめて苟安がデマを飛ばしたことを知り、急いで人をやって逮捕しようとしたが、苟安はすでに魏に向かったあとだった。諸葛亮はデタラメな上奏をした宦

人捕之，已投魏国去了。孔明将妄奏的宦官诛戮，馀皆废出宫外；又深责蒋琬、费祎等不能觉察奸邪，规谏天子。二人唯唯服罪。孔明拜辞后主，复到汉中，一面发檄令李严应付粮草，仍运赴军前；一面再议出师。杨仪曰："前数兴兵，军力罢敝，粮又不继；今不如分兵两班，以三个月为期：且如二十万之兵，只领十万出祁山，住了三个月，却教这十万替回，循环相转。若此则兵力不乏，然后徐徐而进，中原可图矣。"孔明曰："此言正合我意。吾伐中原，非一朝一夕之事，正当为此长久之计。"遂下令，分兵两班，限一百日为期，循环相转，违限者按军法处治。

建兴九年春二月，孔明复出师伐魏。时魏太和五年也。魏主曹睿知孔明又伐中原，急召司马懿商议。懿曰："今子丹已亡，臣愿竭一人之力，剿除寇贼，以报陛下。"睿大喜，设宴待之。次日，人报蜀兵寇急。睿即命司马懿出师御敌，亲排銮驾送出城外。懿辞了魏主，径到长安，大会诸路人马，计议破蜀兵之策。张郃曰："吾愿引一军去守雍、郿，以拒蜀兵。"懿曰："吾前军不能独当孔明之众，而又分兵为前后，非胜算也。不如留兵守上邽，馀众悉往祁山。公肯为先锋否？"郃大喜

官を誅殺し、残った者はすべて解任して宮廷から放逐した。また、悪人を見破れず天子を諫めなかったかどで、蔣琬と費禕らをきびしく責めたところ、蔣琬と費禕は素直に謝罪した。かくて諸葛亮は劉禅のもとを辞去すると、ふたたび漢中へと向かい、檄を飛ばして李厳に食糧と秣を整え、遠征軍のもとに運搬せよと命じる一方、再度、出兵について協議した。と、楊儀が言った。

「以前からしばしば軍勢を動かすたびに、兵力が消耗し、食糧もつづきませんでした。軍勢を二手に分けて、三か月交替にしたほうがよいと存じます。かりに二十万の軍勢があれば、そのうち十万だけを率いて祁山に出撃され、三か月駐屯させて、この十万を帰還させるというふうに、次々に交替させるのです。そうすれば、兵力も消耗せず、ゆるゆると進軍すれば、中原を狙うことができます」。

「きみの意見は私の考えと同じだ。中原は一朝一夕には討伐できない。この長久の計を取るべきだ」と諸葛亮。

かくして命令を下し、軍勢を二手に分けて、百日ごとに交替させ、期限に遅れた者は軍法に合わせて処罰することとした。

建興九年（二三一）春二月、諸葛亮はまたも軍勢を出して魏を討伐した。これは魏の太和五年に当たる。魏主曹叡は諸葛亮がまたも中原を攻撃するとの情報を得ると、急いで司馬懿を呼び寄せて相談した。と、司馬懿が言うには、「今はもう子丹（曹真のあざな）どのも亡くなられたのですから、私は自分ひとりの力を尽くして、逆賊を掃討し、陛下にご恩返ししたいと存じます」。曹叡は大いに喜び、宴会を開いて司馬懿をもてなした。

翌日、蜀軍が猛攻をかけて来たと報告が入ったので、曹叡は即刻、司馬懿に軍勢を出して敵を防げと命じ、みずから鑾駕を並べ洛陽城外に出て見送った。司馬懿は曹叡に別れの挨拶をすると、まっすぐ長安まで行き、大々的に諸方面軍を集結させ、蜀軍を撃破する方策を協議した。すると、張郃が言った。

「私は一手の軍勢を率いて雍・郿の守備に向かい、蜀軍を防ぎたいと存じます」。

「わが方の前軍は単独で諸葛亮の軍勢に立ち向かうことはできず、さりとて軍勢を前後に分けても勝ち目はない。軍勢を駐留させて上邽（甘粛省天水市）を守備し、残った軍勢をあげて祁山に向かうに越したことはない。貴公は先鋒を引き受けてくれるか」と司馬懿。

曰："吾素怀忠义，欲尽心报国，惜未遇知己；今都督肯委重任，虽万死不辞!"于是司马懿令张郃为先锋，总督大军。又令郭淮守陇西诸郡，其馀众将各分道而进。前军哨马报说："孔明率大军望祁山进发，前部先锋王平、张嶷，径出陈仓，过剑阁，由散关望斜谷而来。"司马懿谓张郃曰："今孔明长驱大进，必将割陇西小麦，以资军粮。汝可结营守祁山，吾与郭淮巡略天水诸郡，以防蜀兵割麦。"郃领诺，遂引四万兵守祁山。懿引大军望陇西而去。

却说孔明兵至祁山，安营已毕，见渭滨有魏军提备，乃谓诸将曰："此必是司马懿也。即今营中乏粮，屡遣人催并李严运米应付，却只是不到。吾料陇上麦熟，可密引兵割之。"于是留王平、张嶷、吴班、吴懿四将守祁山营，孔明自引姜维、魏延等诸将，前到卤城。卤城太守素知孔明，慌忙开城出降。孔明抚慰毕，问曰："此时何处麦熟?"太守告曰："陇上麦已熟。"孔明乃留张翼、马忠守卤城，自引诸将并三军望陇上而来。前军回报说："司马懿引兵在此。"孔明惊曰："此人预知吾来割麦也!"即沐浴更衣，推过一般三辆四轮车来，车上皆

「私はもともと忠義の思いを抱き、心を尽くして国に報いたいと願っておりましたが、残念ながら、そんな私を理解してくださる方にめぐりあうことができませんでした。今、都督がそのような大役をお任せくださるのであれば、万死も辞さない覚悟です」と、張郃は大喜びしながら言った。

そこで、司馬懿は張郃を先鋒とし、大軍の総指揮を命じた。また、郭淮に隴西諸郡の守備を命じ、他の諸将にもそれぞれ道を分けて進軍させた。と、前軍の騎馬斥候から、「諸葛亮は大軍を率い、祁山めざして進軍しております。前部先鋒の王平・張嶷はまっすぐ陳倉から出て、剣閣を通過し、散関経由で斜谷へ向かっております」と報告があった。司馬懿が張郃に言うには、「今、諸葛亮ははるばる大軍勢を率いて遠征して来るのだから、必ずや隴西の麦を刈り取り、軍糧に当てようとするにちがいない。きみは陣営を築いて祁山を守備せよ。私は郭淮とともに天水の諸郡を巡察し、敵が麦を刈り取るのを防ごう」。張郃は承諾し、四万の軍勢を率いて祁山の守備に向かい、司馬懿は大軍を率い隴西めざして出発した。

さて、諸葛亮は祁山に到着し、陣営を築きおわると、渭水の岸辺に魏軍の備えがあるのを見て、諸将に言った。「これは司馬懿の仕業にきまっている。目下、わが陣営には食糧が乏しく、しばしば人をやって、李厳に早く糧米を届けるよう急かしているのだが、まだ届かない。思うに、隴上の麦が実る季節だから、ひそかに軍勢を率い、これを刈り取りに行こう」。

そこで、王平・張嶷・呉班・呉懿の四将に祁山の陣営を守備させると、諸葛亮みずから姜維・魏延ら諸将を率い、前進して鹵城（甘粛省天水市と甘谷県の間）に到着した。鹵城の太守はつね日ごろから諸葛亮の名声を聞き知っていたので、慌てて城門を開き降伏した。諸葛亮はねぎらいの言葉をかけたあと、たずねて言った。「今、どこの麦が実っているか」。「隴上の麦がもう実っております」と太守。諸葛亮はそこで張翼と馬忠を留めて鹵城を守備させ、みずから諸将および三軍を率いて隴上へと向かった。と、前軍から「あそこには司馬懿が軍勢を率いて駐屯しております」と報告が入ったので、諸葛亮は驚いて言った。「やつは私が麦を刈り取りに来たのを予知していたのか」。

そこで、諸葛亮は即刻、沐浴して衣服を着替え、そっくり同じ作りの三輛の四輪車を押して来させた。これらの車は飾り付けもまったく同

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

要一样妆饰。——此车乃孔明在蜀中预先造下的。当下令姜维引一千军护车，五百军擂鼓，伏在上邽之后；马岱在左，魏延在右，亦各引一千军护车，五百军擂鼓。每一辆车，用二十四人，皂衣跣足，披发仗剑，手执七星皂旛，在左右推车。三人各受计，引兵推车而去。孔明又令三万军皆执镰刀、驮绳，伺候割麦。却选二十四个精壮之士，各穿皂衣，披发跣足，仗剑簇拥四轮车，为推车使者。令关兴结束做天蓬模样，手执七星皂旛，步行于车前。孔明端坐于上，望魏营而来。

哨探军见之大惊，不知是人是鬼，火速报知司马懿。懿自出营视之，只见孔明簪冠鹤氅，手摇羽扇，端坐于四轮车上；左右二十四人，披发仗剑；前面一人，手执皂旛，隐隐似天神一般。懿曰："这个又是孔明作怪也!"遂拨二千人马分付曰："汝等疾去，连车带人，尽情都捉来!"魏兵领命，一齐追赶。孔明见魏兵赶来，便教回车，遥望蜀营缓缓而行。魏兵皆骤马追赶，但见阴风习习，冷雾漫漫。尽力赶了一程，追之不上。各人大惊，都勒住马言曰："奇怪!我等急急赶了三十里，只见在前，追之不上。如之奈何?"孔明见兵不来，又令推车过来，朝着魏兵歇下。魏兵犹豫良久，又放马赶来。孔明复回车

じであり、諸葛亮が蜀にいたときに前もって作らせたものだった。かくして、ただちに姜維に一千の軍勢を率いて四輪車を守らせ、五百の兵士に太鼓を持たせて、上邽城の裏に潜伏させた。また、馬岱を左、魏延を右に配し、それぞれやはり一千の軍勢を率いて四輪車を護衛させ、五百の兵士に太鼓を持たせた。そのうえで、車一輛ごとに、黒衣に裸足、ザンバラ髪に剣をたばさみ、手には北斗七星を描いた黒旗を持った二十四人を配し、左右から車を押させた。

三将（姜維・馬岱・魏延）がそれぞれ計略を授けられ、兵を率い車を押して出発すると、諸葛亮は三万の軍勢全員に、鎌と縄を持たせ、麦の刈り取りに備えさせた。また、二十四人の精鋭を選び出し、それぞれ黒衣を身につけ、ザンバラ髪に裸足、剣をおびさせると、自分の四輪車のまわりに配して押させた。さらに、関興に天蓬元帥（神話に登場する神）の扮装をさせ、手に北斗七星を描いた黒旗を持たせて、四輪車の前を歩かせると、諸葛亮は車上に端座し、魏の陣営へと向かった。

魏軍の歩哨はこれを見てびっくり仰天し、人間なのか妖怪なのか見分けがつかず、大至急、司馬懿にこの旨、報告した。司馬懿がみずから陣営を出て注視すると、諸葛亮は簪冠（簪でとめた冠）に鶴氅といういでたちで、手にもった羽扇を揺らしながら、四輪車に端座しているではないか。左右には、ザンバラ髪に剣をおびた二十四人の兵士がつき従い、前方の一人は手に黒旗を持ち、さながら天神のようないでたちだ。司馬懿は「諸葛亮がまた妙な真似をしている」と言うと、二千の軍勢を選び出して申しつけた。「すみやかに出撃し、車から人まで、いっさいがっさい引っ捕らえて来い」。魏軍の兵士は命令を受けるや、いっせいに攻撃を開始した。

諸葛亮は魏軍が攻撃して来るのを見ると、ただちに車を返させ、はるか蜀の本陣めざし、ゆるゆると退却しはじめた。魏兵は全員、馬を飛ばして追撃したが、みるみるうちに陰気な風が吹きおこり、冷たい霧が立ちこめて来た。全力で一行程ほど追撃しても、まったく追いつくことができない。そこで、魏兵はみな仰天し、馬の手綱を引き締めて停止すると、口々に言い合った。「はて不思議なことだ。全速力で三十里追撃しても、やつらは前方にいるばかりで、追いつけない。いったいどうしたことだろう」。

諸葛亮は魏軍が追撃して来ないのを見て、車を押しながらもどって来ると、魏軍と向き合って一服した。魏軍はしばらく躊躇していたが、

慢慢而行。魏兵又赶了二十里，只见在前，不曾赶上，尽皆痴呆。孔明教回过车，朝着魏军，推车倒行。魏兵又欲追赶。后面司马懿自引一军到，传令曰："孔明善会八门遁甲，能驱六丁六甲之神。此乃六甲天书内'缩地'之法也。众军不可追之。"众军方勒马回时，左势下战鼓大震，一彪军杀来。懿急令兵拒之，只见蜀兵队里二十四人，披发仗剑，皂衣跣足，拥出一辆四轮车；车上端坐孔明，簪冠鹤氅，手摇羽扇。懿大惊曰："方才那个车上坐着孔明，赶了五十里，追之不上；如何这里又有孔明?怪哉!怪哉!"言未毕，右势下战鼓又鸣，一彪军杀来，四轮车上亦坐着一个孔明，左右亦有二十四人，皂衣跣足，披发仗剑，拥车而来。懿心中大疑，回顾诸将曰："此必神兵也!"众军心下大乱，不敢交战，各自奔走。

正行之际，忽然鼓声大震，又一彪军杀来：当先一辆四轮车，孔明端坐于上，左右前后推车使者，同前一般。魏兵无不骇然。司马懿不知是人是鬼，又不知多少蜀兵，十分惊惧，急急引兵奔入上邽，闭门不出。此时孔明早令三万精兵将陇上小麦割尽，运赴卤城打晒去了。司马懿在上邽城中，三日不敢出城。后见蜀兵退去，方敢令军出哨；于路捉得一蜀兵，来见司

ふたたび馬を走らせ追撃にかかった。すると諸葛亮は車を返し、またゆっくりと進んで行った。魏軍は二十里追撃したが、諸葛亮はあいかわらず前にいて、まったく追いつけず、魏軍の将兵は全員あっけにとられてしまった。と、諸葛亮は車をもどさせ、魏軍に向かって、車を押しながら近づいて来たので、魏軍はまたも追撃しようとした。

このとき、後方から司馬懿がみずから一手の軍勢を率いて到着し、命令を下した。「諸葛亮は『八門・遁甲の法』を会得し、六丁・六甲の神々（いずれも道教の神を指す）を駆使することができる。これぞまさしく六甲の天書に記されている『縮地の法』にほかならず、追撃してはならない」。

魏軍が手綱を引き馬首をめぐらせようとした瞬間、左側から軍鼓の音をとどろかせながら、一手の軍勢が殺到して来た。司馬懿が急いで防がせようとしたとき、蜀の軍勢のなかから、ザンバラ髪に剣をおび、黒衣に裸足の二十四人の者が、四輪車をとりまきながら姿を現した。車上には簪冠に鶴氅といういでたちの諸葛亮が端座し、手で羽扇を揺らしている。司馬懿はびっくり仰天して言った。「今しがたの車に諸葛亮が端座しており、五十里追撃したが追いつけなかったのに、ここにどうしてまた諸葛亮がいるのか。わけがわからん」。

言いおわらないうちに、右側からまた軍鼓が鳴り響いたかと思うと、一手の軍勢が殺到して来た。四輪車にはまた一人の諸葛亮が端座し、左右にはまた黒衣に裸足、ザンバラ髪に剣をたばさんだ二十四人の者が、車を囲みながら姿を現した。司馬懿は不思議でたまらず、諸将を顧みて言うには、「これは神兵だ」。魏軍一同、気持ちが混乱して、戦いを交えることができず、てんでんばらばらに逃げ出した。

逃走にかかったとき、突然、軍鼓が鳴り響き、またしても一手の軍勢が殺到して来た。先頭の四輪車に諸葛亮が端座し、前後左右の車を押す者のようすも先の場合と同じだった。魏軍の将兵はこぞって愕然とした。司馬懿はそれが人間なのか妖怪なのかわからず、また蜀軍がどのくらいの数なのかつかめないため、非常に驚き恐れ、大急ぎで軍勢を率いて上邽に逃げ込み、門を閉ざして出撃しなかった。

このとき、諸葛亮は早くも三万の精鋭に命じて隴上の麦を刈り取らせ、鹵城に運んで日にさらしていた。司馬懿は三日間、上邽の城内に閉じこもって出ようとせず、蜀軍が退却したのを確かめてから、ようやく斥候を出すように命じた。斥候は途中で一人の蜀兵を捕まえ、司馬懿の

马懿。懿问之，其人告曰："某乃割麦之人，因走失马匹，被捉前来。"懿曰："前者是何神兵?"答曰："三路伏兵，皆不是孔明，乃姜维、马岱、魏延也。——每一路只有一千军护车，五百军擂鼓。——只是先来诱阵的车上乃孔明也。"懿仰天长叹曰："孔明有神出鬼没之机!"忽报副都督郭淮入见。懿接入，礼毕，淮曰："吾闻蜀兵不多，现在卤城打麦，可以击之。"懿细言前事。淮笑曰："只瞒过一时；今已识破，何足道哉!吾引一军攻其后，公引一军攻其前，卤城可破，孔明可擒矣。"懿从之，遂分兵两路而来。

却说孔明引军在卤城打晒小麦，忽唤诸将听令曰："今夜敌人必来攻城。吾料卤城东西麦田之内，足可伏兵；谁敢为我一往?"姜维、魏延、马忠、马岱四将出曰："某等愿往。"孔明大喜，乃命姜维、魏延各引二千兵，伏在东南、西北两处；马岱、马忠各引二千兵，伏在西南、东北两处："只听炮响，四角一齐杀来。"四将受计，引兵去了。孔明自引百馀人，各带火炮出城，伏在麦田之内等候。

却说司马懿引兵径到卤城下，日已昏黑，乃谓诸将曰："若白日进兵，城中必有准备；今可乘夜晚攻之。此处城低壕

前に連行して来た。司馬懿がたずねると、その蜀兵は言った。

「私は麦の刈り取りに当たっておりましたが、馬が逃げたため捕まえられたのです」。

「この前のはどんな神兵だったのか」と司馬懿。

「三方面の伏兵はすべて諸葛亮ではなく、姜維・馬岱・魏延にほかなりません。どの方面軍にも車を護衛する兵士一千人と太鼓を持った兵士五百人しかおりませんでした。先行して戦いを仕掛けた車に乗っていたのが諸葛亮です」と蜀兵。

「諸葛亮は神出鬼没の機略の持ち主だ」と、司馬懿は天を仰いで、長嘆息した。

そのときふいに副都督の郭淮が会いに来たと報告が入った。司馬懿は迎え入れ、挨拶がすむと、郭淮は言った。「蜀軍は多勢ではなく、目下、鹵城で麦を打っているそうですから、今、攻撃すべきです」。司馬懿が事細かにこれまでのことを告げると、郭淮は笑いながら言った。「一時的に騙されただけで、今は見破ったのですから、問題になりません。私が一手の軍勢を率いて背後から攻撃し、貴公が一手の軍勢を率いて前方から攻撃されれば、鹵城を攻め落とし、諸葛亮を生け捕りにできます」。司馬懿はこの意見に同意し、軍勢を二手に分けて攻め寄せた。

さて、諸葛亮は軍勢を率いて鹵城に駐屯し、麦を日にさらしている最中、突然、諸将を呼び集め命じて言うことには、「今夜、敵は必ずこの城を攻撃に来る。察するところ、鹵城の東西の麦畑は十分、伏兵を配することができるだろう。誰か私のために行ってくれる者はいないか」。姜維・魏延・馬忠・馬岱の四将が進み出て言った。「私どもに行かせてください」。

諸葛亮は大いに喜び、そこで姜維と魏延にそれぞれ二千の兵を率いて、東南と西北の二か所に潜伏せよと命じ、馬岱と馬忠にはそれぞれ二千の兵を率いて、西南と東北の二か所に潜伏せよと命じたうえで、「火砲が鳴ったら、四方からいっせいに攻めたてよ」と申しつけた。計略を授かった四将が軍勢を率いて出発すると、諸葛亮はみずから、それぞれ火砲を持った百人余りを率い、城外の麦畑にひそんで待機した。

一方、司馬懿が軍勢を率いて鹵城の城壁の下に到着したころには、日はすでに暮れていた。そこで諸将に、「もし日中に進撃すれば、城中には必ず備えがあるにちがいない。だから、今、夜闇に乗じて攻撃をかける。ここは城壁が低く壕も浅いから、簡単に攻め落とせるだろう」と

浅，可便打破。”遂屯兵城外。一更时分，郭淮亦引兵到。两下合兵，一声鼓响，把卤城围得铁桶相似。城上万弩齐发，矢石如雨，魏兵不敢前进。忽然魏军中信炮连声，三军大惊，又不知何处兵来。淮令人去麦田搜时，四角上火光冲天，喊声大震，四路蜀兵，一齐杀至；卤城四门大开，城内兵杀出：里应外合，大杀了一阵，魏兵死者无数。司马懿引败兵奋死突出重围，占住了山头；郭淮亦引败兵奔到山后扎住。孔明入城，令四将于四角下安营。郭淮告司马懿曰：“今与蜀兵相持许久，无策可退；目下又被杀了一阵，折伤三千馀人；若不早图，日后难退矣。”懿曰：“当复如何?”淮曰：“可发檄文调雍、凉人马并力剿杀。吾愿引军袭剑阁，截其归路，使彼粮草不通，三军慌乱：那时乘势击之，敌可灭矣。”懿从之，即发檄文星夜往雍、凉调拨人马。不一日，大将孙礼引雍、凉诸郡人马到。懿即令孙礼约会郭淮去袭剑阁。

却说孔明在卤城相拒日久，不见魏兵出战，乃唤姜维、马岱入城听令曰：“今魏兵守住山险，不与我战：一者料吾麦尽无粮；二者令兵去袭剑阁，断吾粮道也。汝二人各引一万军先

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com